

なぜ、CBSはTV Everywhereを 採用しなかったのか

米国に居を構え、米国のデジタル放送とインターネットTVの動向をウォッチし続けているテッド若山氏。今月のテーマは「なぜ、CBSはTV Everywhereを採用しなかったのか」である。

テッド若山氏は、米国の調査会社ストラテジック社の調査担当副社長を経て、1987年にNSI Research社を設立。情報・通信・放送技術分野のマーケット調査とコンサルティング・サービスを提供している。さらに、マンスリーレポート「The Compass」を出版。サンプル購読希望者はcompass@nsirinc.comまで。

地上波ネットワークのCBSは、「CBS All Access」と呼ばれるインターネットでのサービスを開始した。ウェブ、それにアプリによりCBSの現シーズンの番組のキャッチアップ、過去の番組のオンデマンド、それにCBSが保有している局の地域ではライブ視聴もできる。ABCが2013年に始めたWatch ABCと似ているが、決定的な違いがある。Watch ABCはTV Everywhereであり、ABCと契約している多チャンネルサービス事業者の加入者であれば無料で見ることができる。CBS All Accessは有料(月額\$5.99) サービスであり、Netflixと同じような定額のSVODサービスである。

なぜ、CBSはTV Everywhereを採用しなかったのか？

CBSはABC、Fox、NBCとは違い、大手コンテンツ事業者の一部ではない。映像系の資産は、CBSと有料チャンネルのShowtimeだけだ。MTV、Nickelodeon等の多チャンネルネットワーク、それに映画のParamountを持っているViacomは同系列だが、全くの別会社になっている。CBSはHuluへの参加も断り、他の地上波ネットワークとは異なる動きをすることで知られているが、それだけではCBSがTV Everywhere (TVE) を採用しなかった答えにはならない。

地上波ネットワークは多彩なコンテンツ事業の一部であり、Disney、NBCUniversal、Foxと違い、CBS社にとってCBSネットワークが最大の収入源である。そのため、CBSは再送信料の

大幅な値上げを行い、2013年はTime Warner Cable (TWE)との契約更新時に争い、1カ月間TWEはCBSを放送しなかった。現在、CBSはDishと契約更新で争っている。CBSの契約金はすでに高く、TVEのために更に値上げすることは難しいであろう。

しかし、TVE自体にも問題がある。TWEを提案したTime Warnerの有料チャンネルのHBOも、2015年からHBOのライブ配信を含めたSVODのサービスを始める。HBOはTVEを真っ先に採用した会社であり、TVEには最も積極的なテレビネットワークであった。HBOはTVEを止めるわけではないが、HBOは多チャンネルサービスに頼らないOTTビジネスの開拓を始めた。

TVEの利用は増えているが、まだ一般化していない。2014年始めの調査だが、RAMP社によると多チャンネルサービス加入者の82%は、TV Everywhereを聞いたことがなかった。より最近のAltman Vilandrie社の調査でも、モバイル端末で週に1回はTV番組を見ている人でも、TVEを使っていると答えた人は41%でしかない。

TVEにはさまざまな問題がある。多チャンネル事業者でも契約状況が異なるので、加入していてもTVEで視聴可能なネットワークが異なる。さらにモバイル端末での視聴では、アプリがそれぞれであるので、幾つものアプリをダウンロードする必要がある、見たい番組を見つけることも容易ではない。

多チャンネル事業者の間にもTVEに対する疑問が出ている。TVEは多チャンネル独占のサービスであり、加入者を引き止める理由にはなる。しかし、TVEを加入者に提供するためには、ネットワークとの契約金が増え、料金がアップする。インターネットでのビデオ視聴が圧倒的に多いのは18歳～24歳の層で、既存の多チャンネルサービス加入者の年齢層ではない。特に、高齢層はインターネットでビデオの視聴は少なく、TVEが提供されていても使われていない。加入者の多くが利用していないサービスのために、料金が値上がりし、加入者を失う可能性がある。TVEの提供により、18歳～24歳の層を多チャンネルサービスに惹きつけることができれば良いが、その気配はない。

